

愛育ながさき

Ai-iku-Nagasaki 67号

発行所/一般社団法人長崎県手をつなぐ育成会
発行者/竹内隆伯 発行日/令和8年1月7日
〒852-8104 長崎市茂里町3-24
長崎県総合福祉センター県棟4F 408号
Tel:095-846-8730/Fax:095-846-8738
E-mail:info@ikusei-nagasaki.jp

県育成会 大村大会

障害者施策に関する意見を聴く会
県への要望

全育連東京大会

九州地区育成会沖縄大会
全国障害者スポーツ大会 in 滋賀



写真：ながさきピース文化祭 202 障害者芸術祭

長崎県手をつなぐ育成会 大村大会

12/6(土) シーハットおおむら
さくらホール

師走にしては暖かな陽気の中、県下各地育成会会員をはじめ多くのご来賓にもご出席賜り、地元大村で活動中の希悠太鼓の太鼓演奏をオープニングに、第34回大会が賑やかに開催されました。

スローガン「共に歩もう みんなで繋ごう 大村大会」

主題「新しい時代を見すえた 夢のある 育成会へ」

記念講演「新しい時代を見すえた 夢のある 育成会をつくるために」

福岡市手をつなぐ育成会 会長 下山 いわ子氏

シンポジウム コーディネーター・シンポジスト 下山 いわ子氏

シンポジスト 長崎市育成会 会員 長与 美也氏

諫早市育成会 会長 西野 悟氏

本人決議文の報告 本人部会「長崎きずな」のみなさん

大会決議文の採択 大村市手をつなぐ育成会 会長 久松 甲氏



大会に参加して

諫早市手をつなぐ育成会 会長 西野 悟

「夢のある 育成会へ」が主題である大村大会のシンポジストとして参加し、諫早市手をつなぐ育成会が現在進めている組織強化プロジェクトにおける現状と今後の話をさせていただきました。

当日は、諫早市の 3 障害団体(身体、知的、精神)合同の「いさはや障害者福祉大会/諫早文化会館」と重なってしまい私も育成会の代表であるためシンポジウムだけの参加でした。また育成会の会員からも県大村大会に参加できないことを残念に思う声も多くありました。

いま私たちは必要とされる活動、また「こんな活動もいいかも」と思えるものは数多くありますが、誰がどの体制で動くのか、あらゆる方面から具体的に動き出すための「組織」が不可欠であると考えます。諫早市手をつなぐ育成会は会の長を生かした「組織強化準備委員会」を結成し、具体的な活動の種別とそれらを実施する各部の形成により活動のシナリオをまとめ、まずは「やってみる」ところから始め修正を重ねて目標達成に向かう旨の概要を説明しました。

竹内会長やコーディネーターの福岡市手をつなぐ育成会理事長の下山様からも激励の言葉を頂戴し、活力をいただいたシンポジウムでした。

長崎市手をつなぐ育成会 会員 長与 美也

最初はどのくらいの規模の大会かよくわかっていなくて、「冊子用の原稿を書いて」と言われたときに、『あれ？思ったより大きな会なのでは？』と冷や汗が出ました。私はシンポジストも初めてでしたし、大会で個人で発表するという経験ありませんでした。原稿は、啓発事業部の先輩会員さんに確認してもらったから大丈夫！という大きな支えがあって、当日挑むことができました。

当日は、同じく育成会会員の友人達が会場まで送ってくれたのですが、先輩会員さんが私ではなく友人達に私の入り時間厳守を伝えて、私の方には全くプレッシャーをかけないようにしてくださっていました。会場に入ってから、長崎市育成会の理事長が下山さんと顔合わせをさせていただき、下山さんから優しい言葉をかけていただき、また隙間時間には育成会職員さんが私に話しかけて緊張をほぐしてくれました。終わってみると関わってくださった皆様のおかげで、緊張する時間が少なくてすみ、支えてもらったお心遣いに感謝の気持ちでいっぱいです。

本人部会「長崎さずな」西海市手をつなぐ育成会 廣田 優花

大村大会に初めて参加してみてオープニングの時の太鼓の演奏を聞いて全員本番までにたくさん練習して本番にそなえてきてるのが伝わってきました。他の人の話を聞いていたら大変な思いをしてる人もいてその中で周りの人の意見を聞いて対策してる人もいるんだなあって思いました。本人決議のリハーサルをする時に発表文を言ってる時に言葉を噛んだり、前の人の文章を読んだりしてたけど本番ではステージ上でめっちゃ緊張して間違えずに言えるか不安やったけど一度も間違えずに言えたので良かったです。又大村大会やイベントがある時は自分の経験として積極的に参加していきたいと思いました。

県大会大村大会を終えて

長崎県手をつなぐ育成会 会長 竹内 隆伯

7年ぶりの参集型での県大会大村大会を滞りなく終えることができ少し安堵しています。スムーズな大会運営に尽力いただいた実行委員や大村市育成会のみなさんに改めて感謝申し上げます。また、県下各地域から参集頂いた会員、多忙な中を参加頂いた来賓をはじめ関係機関のみなさんに心より感謝申し上げます。

障害のある子が生まれても「特別なこと」ではなくなって、だれもが尊厳ある暮らしを送れる共生社会が実現したら育成会は必要なくなるかも。でも、そこが「楽しい場所」「必ず隣にいてくれる人がいる居場所」「お互いを尊重し合える居場所」「学べる居場所」だったら、いつまでもあってほしい「夢のある育成会として」。記念講演で話された下山さんの言葉です。参加されたみなさんはどのように受け止められたでしょうか。わたしは、心の底からそうあって欲しい、そうなるように活動の内容を再点検しながら、未来へとつながる取組みに生かさねばとの思いを強く持ちました。

シンポジストの長与さんは育成会にお願いしたいこととして①情報がタイムリーに届きやすいように②大人になっても日中支援が延長できないか③個人で利用できる余暇支援事業はないか、と訴えられました。

西野さんは様々な事について「こうあるべき」ではなく「そんなこともあるかも」のように絶対的ではなく緩やかな発想が大事ではないかと発言されました。下山さんも話された「一人の一步を支えて」という思いが、やがて沢山の人の支えにつながることになる。長与さんの願い、西野さんの活動に取り組む姿勢、そして、本人である戸畑さんからは運動・活動にメンバーとして直接関わりたいとの意見がありました。出された意見、思いを心に留め育成会活動・運動を継続するモチベーションにしたいものだとして再確認ができるシンポジウムでした。

九州地区手をつなぐ育成会 沖縄大会



10月18日(土)、『障がいのある人もない人も共に暮らしやすい社会をあたりまえに』を大会テーマに第64回九州地区手をつなぐ育成会沖縄大会が那覇市で開催され、長崎県からは21名(うち本人9名)が参加しました。

「障がい者の権利擁護と、意思決定支援の確立を」「地域と共に、ゆとりある本人支援を」の二つを大会スローガンに掲げ、午前中は式典、行政説明、中央情勢報告が行われました。行政報告では厚生労働省地域生活・発達障害者支援室の松崎

貴之氏より障害福祉保健施策の動向について細かいデータを提示しながら説明いただき、中央情勢報告では全国手をつなぐ育成会連合会常務理事兼事務局長の又村あおい氏より法改正や報酬改定、就労選択支援の創設、成年後見制度見直しの行方などについての話がありました。午後からは全体会と本人大会に分かれ、知的障がい者支援会議と銘打った全体会では「寄り添って 共に生きる」をテーマに、「学齢期について」「家族の関りと育ち」「意思決定を支援する」「就労と生活の支援」と4つの立場からそれぞれの提言者が意見を発表しました。その中の「就労と生活の支援」では西海市手をつなぐ育成会「互隣の家」管理者岩下大助氏が法人の課題や取り組みなど、今後についての話をされました。

並行して実施された本人大会では「仲間たちと作ろう！私たちの未来」をスローガンに、「語ろう会」として10名の代表がそれぞれの意見を発表し、会場からの質疑が行われました。長崎県からはNPO法人ふれあいネットワークピア長崎支部の戸畑元貴氏が自己紹介と共に言葉で訴えることのできない仲間もいるので、そういう人たちのために何か自分ができることはないかと模索する思いを語られました。後半は名刺交換会、エイサーワークショップと続き最後はみんなで教えていただいたエイサーで盛り上がりました。また「おきなわ観光」コース参加者は万座毛見学やお菓子御殿恩納村店での食事や買い物、オリジナルシーサー絵付け体験を楽しまれました。夜の交流会でもカチャーシーという踊りをご指南いただき、沖縄特有の文化と親しみやすさで大いに盛り上がった沖縄大会でした。(長崎市手をつなぐ育成会 本人活動サポーター吉井 裕子)

参加してみて

本人部会 長崎きずな 会長／ふれあいネットワークピア 長崎支部 戸畑 元貴

本人大会の「語ろう会」で長崎県の代表として発表をしました。ある人の思いを叶えたいという気持ちからきずなの会の会長になりましたが、今はみんなの持つ夢を応援したいという気持ちを話しました。緊張はしなかったし、自分の思いを伝えることができました。またほかの県や市の代表者の話を聞いて勉強になりました。特にヘルパーの資格を取るために頑張っている人やパートナーと結婚したいという人の話には感動しました。



交流会では他県の会長や偉い人と積極的に話をし、育成会組織に本人を入れてほしいと伝えました。1日目に行った首里城はまだ工事中でしたが、完成したところをもう一度見に行きたいと思いました。たくさんの人たちといろんな話をできて大会に参加してほんとうによかったです。

大会表彰

九州地区沖縄大会において、長崎市育成会の吉井裕子氏(写真左)が表彰されました。学校役員に始まり法人啓発事業部の主任として、会員活動の企画実行、広報誌編集、啓発キャラバン隊、本人活動サポートなど、目覚ましい活躍をされています。



第10回全国手をつなぐ育成会全国大会 東京大会／本人大会 大会スローガン「ともに生きる社会を目指して」

2025年11月8、9日の両日、令和7年度全国手をつなぐ育成会連合会の全国大会東京大会本人大会が、東京都蒲田の日本工学院専門学校蒲田キャンパスで開催されました。この大会は、関東甲信越大会、全国手をつなぐ事業所協議会全国大会とも併催となり、もう一つは、育成会創立70周年記念大会ということで、10年に一度の東京大会に相応しく名実ともに盛会となりました。

会場は主に日本工学院専門学校のキャンパスの3号館で、地下1階から地上12階までの各部屋を利用しての開催で、他にカムカム新蒲田での第2分科会、大田区区民ホール・アプリコでは事業所協議会全国大会が開催され、学校なのに、とにかく大きなビルばかりで、その風景にまずはびっくりさせられました。それに加え、東京都育成会は大きな法人を抱えているので職員も多く、各地からの来訪者の対応も丁寧で行き届いており、2日目のボディチェックも心配したほど長引かずに済みました。



大会式典の様子



式典でお言葉を述べられる佳子様

さて、1日目は第1から第5までの分科会が開催され、日本レベルの講師陣が揃い、どの分科会も参加者は充分満足できる内容だったようです。全国事業所協議会研修大会は11月8日の1日開催で、現状の行政説明、福祉サービスのこれから、その後午後からは3つの分科会に分かれての研修会となり、同じく本人大会も話し合いの分科会と観光コースで東京観光や上野動物園見学など、多様な内容での開催でした。

2日目は、全体会が、秋篠宮佳子様をお迎えして開催されました。佳子様は、知的障害のことや育成会関係の本を色々読まれたようで、的確な内容を、優しくゆっくりとお話くださいました。

また、特別表彰として長年のご労苦を労い現在全育連顧問の久保厚子氏、そのほか表彰状31名、感謝状10名の表彰もありました。

その後、記念講演では、「ともに生きる社会をじんわりと語り合う」と題して、母親と自閉症の息子を描いた映画「梅切らぬバカ」の監督和島香太郎氏とお馴染みの植草大学副学長の野澤和弘氏の対談が行われ、主演の加賀まりこさんや塚地武雄さんの撮影エピソードなどを含め、自閉症の世界を温かく見守るインクルージョン社会のあり方を今更ながらかみしめた、素晴らしいお話でした。

最後に、時期開催県である兵庫県の会長よりご案内があり、令和8年11月1日の1日開催の大会への熱烈な誘致が行われ、来年の再会を楽しみに大会の幕は降ろされました。(谷)



特別表彰を受ける久保顧問(右)

分科会に参加して 第3分科会(シニア世代の暮らし方権利擁護)

第3分科会に出席し、それぞれの地域で実践されている方々の報告を拝聴しました。当育成会のGHでは現場の職員だけでは支援が難しいとの判断のもと介護保険サービスのGHへの移行した事例もあります。その後、その方はまもなく体調を崩したことを聞きました。住み慣れた場所、関わりがあった人々が変わったことも大きな事だったのではないかと悔やみました。

健やかな高齢期を迎えられるにはどうしたらよいか、医療(訪問看護、訪問診療等)や介護サービス、その他の機関、また、近隣の方や、グループホームとの連携等、ネットワーク型支援体制の必要性をあげられました。大変参考になりました。(次ページへ続く)

本人の望む暮らしに寄り添っていけるように努力していかなければならないと切に思いました。

また、記念講演では「共に生きる社会」について野澤和弘氏と自閉症の息子さんとその母親の日常を描いた映画「梅切らぬバカ」の映画監督 和島香太郎氏の対談がありました。

私は、この映画を見ていないのですが、お二人のお話を伺った後に糸賀一雄氏の「この子らを世の光に」という言葉が思い浮かびほっこりとした気持ちで帰路につきました。(佐世保市手をつなぐ育成会 山下順子)

第4分科会(権利擁護～自分らしく生きる～)

第4分科会は、権利擁護を主題に「大切な人の‘いとなみ’を支える実践」として、基調講演に「社会福祉法人みんなでききる」の理事である片桐公彦さんが登壇され、人権の基本的な話から、障害のある人たちの権利擁護、そして虐待防止法や意思決定支援についての歴史を踏まえた現状の話がされました。そして、「意思決定」と言っているけど、実は「～無理なことだから流石にやめさせよう・・・」となって、本人の意思決定はどうなっているのか？と、問題提議されました。2部はシンポジウムで、その中で長野県の高水福祉会の理事長 野口直樹さんの「当法人における意志決定支援の取り組み」として新たな取り組み「Lohas(ロハス)について」の題名で、強度行動障害者の方のレスキュー支援から、トリートメント機能(二次障害である強度行動障害を軽減する支援)、最終的には地域移行を目指すというコンセプトでロハスというグループホームを開設。シャトル型入所施設として、原則2年という期間を、地域生活を再開するための準備期間とし、地域生活支援拠点の一つの機能として共生社会を目指すという内容でした。実際、もともとある入所施設も地域に移行するので50名定員が半分の定員になっており、実践に基づいたお話で強度行動障害の方たちへの有効な支援が実践されているということで、心強く感じました。ほかには東京都育成会の法人での預かり金支援をシステム化されている話や、同じく東京都育成会の支援の方から、重度の方の意思決定の難しさについての話がありました。(長崎県手をつなぐ育成会 副会長 谷 美絵)

第5分科会(育成会活動)

「自分以外の誰かを愛おしく思える、素敵な人たちが集う会」これまでも。これから。いつまでも。目黒区手をつなぐ親の会の白石会長の言葉。

「私たちが一番つらく苦しかったのは、子どもの障害が分かった時である。その時期の人たちに手をさしのべられない育成会は、存在価値はない」浜松市手をつなぐ育成会高橋副会長の言葉。

障害のある子の親の誰しもの心の深層にひびく、共感できる、優しく、そして、育成会活動を続けるんだ！という揺るぎない信念・覚悟をいただける言葉であった。

今、私たちを取り巻く社会の現状を俯瞰すると、高齢になり活動に参加できない、若い保護者は共働きで育成会活動に参加する時間はないなど、様々な事情を抱えている。

障害のある人たちを支える法律や施策はこの20年で一定程度の整備がなされ、育成会に入会しなくても福祉サービスの情報はSNSなどで簡単に入手できるので、さほど困り感がないのかもしれない。

しかし、一人ひとりの声に耳を傾け聞いてみると、それぞれに胸に秘めた思いや悩みがあることも現実のように感じる。そこに育成会本来の役割があるのではないだろうか。

ただ、その人たちと繋がることができないと先輩保護者として寄り添い経験を語ることや思いや悩みを受け取ることはできない。これならばと言える方法を見出すことは難しいかもしれないが、何か行動を起こさないと組織の衰退を止めることはできないだろう。

SNS、LINEを使って情報発信・共有。年金学習会や理解啓発活動(キャラバン隊)、フレッシュな課題に対応できる研修会の開催など、人口減少や高齢化が進む現状を受け止め、それぞれの地域の状況に合わせ関係機関との連携を深め、協働できる体制を整える取り組みが求められている。

役員は失敗してもいいからやってみる。やりたいようにやればいいという寛容な気持ちで活動を見守る姿勢(浜松市手をつなぐ育成会会長の言葉)を伝えることで、それならやってみようとする人が現れてくれる。

いつでも、だれでも、気軽に集える場所、親としての気持ちがかかりあえる居場所を用意しておくこと。

会長を担う人がいなくても、やりたいこと・やるべきことを分担して行う事でもいいのでは。それで育成会活動・運動を継続できる。(佐々木会長と田中理事長の対談)

以上が第5分科会の中で私が思えたことです。(長崎県手をつなぐ育成会 会長 竹内 隆伯)

県への要望 意見交換会



さる11月20日、福祉の現状への要望についての意見交換会が長崎県庁で行われました。毎年恒例となっており、長崎県も障害福祉課長をはじめ担当の方たちが誠意をもって要望内容に回答を下さいました。

今年度は虐待防止法での通報件数が市町によって差があり、特に養護者の虐待に関しては、表に出なかったり家族だからないことにされたりという事例はないのかという内容でした。実際通報したのに件数にあげられなかったり、通報して

も解決の話し合いがもたれているのか分からず、各市の虐待防止センターが、市民の通報の義務を尊重し、本来の手順で解決できるよう、長崎県としても各市町への働きかけを進めていただけると感じました。虐待防止センターが機能している市もあるのですが、障害のある方たちの権利を守る行動はもっと充実されるよう願っています。あとは障害福祉サービスでのサービス充実につながる要望などがありました。

障害者施策に関する意見を聴く会

11月20日、長崎県庁にて令和7年度の「障害者施策に関する意見を聴く会」が開催されました。この会は当事者より出た要望や意見を障害者施策の参考にしてもらえるようにと毎年行われています。

長崎県育成会の本人部会きずなの会を代表し、山元 直喜さん(長崎市育成会)、高比良 政喜さん(長崎市育成会)、戸畑 元貴さん(ふれあいネットワークピア長崎支部)3名が意見発表をしました。

長崎県障害福祉課からは障害福祉課長をはじめ6名の方が出席され、それぞれの話や要望を聞いていただきました。発表者の方はそれぞれに学校や前の職場での嫌がらせなどつらい体験、今の仕事や生活で楽しんでいること、親が亡くなることを考えたときの不安、育成会では若い障害者の意見が反映されていないこと、本人理事がないことの課題などや要望を堂々と語られました。障害福祉課の方からはそれぞれの発表者に丁寧な感想をいただき、障害理解など共生社会の必要性を痛感し、みなさんが楽しく生活できるよう頑張りたいと言っていました。育成会からも、本人が理事になるにはどのような合理的配慮が必要か全国育成会連合会の検討を待つて取り組むことなどみなさんの要望を反映できるようにすることを伝えました。(長崎県育成会 三村)

県庁で発表して

県庁で発表することが決まって、うれしい気持ち半分と昔のことを話さなければいけないという不安な気持ちがありました。でも、これまでの仕事やファシリテーターのけいけんがあったので、みんなの前で話すことは自信がありました。昔のことを思い出すとつらい気持ちになりますが、この自信のおかげで頑張って県庁でも発表しようと思いました。

陽香里工房でのリハーサルでも本番でもきんちょうしなかつたけど、言葉のつまりが気になりました。でもなれていることもありだいじょうぶでした。自分の伝えたことが県庁のみなさんに伝わったか気になります。また機会があったら発表したいです。(長崎市手をつなぐ育成会 高比良 政喜)



第24回全国障害者スポーツ大会メダル獲得者（知的障害者のみ掲載）

令和7年10月25日～27日まで「わた SHIGA 輝く障スポ2025」を大会メッセージに滋賀県で開催され、長崎県から29名が参加し、金メダル13個、銀メダル10個、銅メダル8個計31個を獲得しました。

競技種目	選手名	種目1	種目2
陸上競技	樽木 令文*	100m 第2位	
	塩谷 剛汰*	200m 第1位	100m 第3位
	久保 克月*	200m 第1位	
	古川 侑佳*	200m 第3位	100m 第1位
	木村 陽菜	200m 第2位	
	小島 漣	1500m 第2位	
	上記*4名	4×100m リレー 第3位	
水泳競技	大江 龍之介	25m 自由形 第1位	50m 自由形 第2位
	上瀧 蓮		50m 平泳ぎ 第2位
卓球競技	川口 勝人	一般卓球 第3位	
	木村 ヒヨ	一般卓球 第3位	
フライングディスク競技	琴岡 淳一	ディスタンス 第3位	
ボウリング競技	一ノ瀬 太	第2位	

～ボウリング競技～

今年は、10年ぶり代表復帰の一ノ瀬太選手、初参加の坂内竜成選手、久しぶりの女性代表の野田由佳子選手の多様性トリオで参加しました。10月23日、空路伊丹空港から貸し切りバスで彦根市アパホテルに16時頃到着しました。24日は朝から公式練習に臨み、緊張の中にも次第に落ち着きと闘志がみなぎる印象でした。午後から彦根城を見学しました。急峻な階段に驚きながらもスケールの大きさに感動を隠せませんでした。

25日は午前中開会式に参加後、競技1日目、初出場の坂内選手は周りの選手に圧倒されたのか、本来の力が発揮できず6位、野田さんは2ゲーム目に挽回して3位、一ノ瀬選手は雰囲気を楽しみ1位で終わりました。26日・競技2日目、坂内選手は第4ゲームにやっと本来の調子を取り戻したものの、入賞はできませんでした。野田選手は第3ゲームで調子をつかみ2位につけましたが、最終第4ゲームに失速して入賞を逃しました。一ノ瀬選手も第3ゲームまでは首位争いをしていましたが、残念ながら2位入賞で終わりました。3選手とも「これからは練習を重ねまた代表になり、リベンジを」と誓っていました。とてもいい思い出になったようです。（ボウリング競技監督 長崎県手をつなぐ育成会 三村）



知的障がい児者・発達障がい児者（自閉症児者を含む）の 生サポは 家族の安心を支えます

当会にご入会いただくと、知的障がい児者、発達障がい児者（自閉症児者を含む）のための病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、職業従事事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者
ジェイアイシー九州
〒810-0001 福岡市中央区天神4-6-7
JRE天神クリスタルビル14階
TEL: 092-791-7561 FAX: 092-791-7562
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社
AIG損害保険株式会社
https://www.aig.co.jp/sonpo
福岡支店
〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-35 AIG福岡ビル
TEL: 092-718-7000
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

- 日常生活に関する相談支援
 - 就労に関する相談支援
 - 権利擁護に関する相談支援
- の3事業を実施しています。

主な補償内容

病気やケガで入院したとき
入院給付金 ※プランによって補償します

病気で死亡したとき
疾病葬祭費用保険金 ※プランによって補償します

虐待・逮捕・勾留に対応するとき
弁護士費用等補償 ※プランによって補償します

ケガをしたとき
死亡・後遺障害・入院・通院・手術 / 各保険金
(地震・噴火・津波によるケガも対象)

賠償責任を負ったとき
個人賠償責任補償

就労中に他人にケガをさせたり物を壊してしまったとき
職業従事事故対応費用補償 ※プランによって補償します

※上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

ご入会のお問合せはこちら

ながさき生活サポート協会
〒852-8134 長崎市大橋町19-19
長崎手をつなぐ育成会内
TEL: 095-845-5668 FAX: 095-845-5664
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2025年1月現在の内容です。(D-007608 2026-03)

《 長崎県手をつなぐ育成会行事のお知らせ 》 3月まで

行 事	月 日	場 所 及 び 主 催	概 要
障害者 110 番事業 無料法律相談	1月14日(水) 1月28日(水) 2月3日(火)	西海市互隣の家 波佐見町文化会館 大村市中央公民館	13:00~14:40 講話・質疑 (西海市は14:00開始・終了15:40) 「障害者差別・虐待などの 悩み相談について」(後見含む) 弁護士 曾場尾 雅広氏 14:50~17:00 個別相談(なんでも可)
障害理解啓発研修 (知的障害疑似体験)	1月24日(土) 2月14日(土)	対馬市 豊玉町福祉センター 島原市杉谷公民館	13:00~16:00 1 知的障害疑似体験: 「長崎よかよか隊」対馬市 「島原がんば隊」島原市 2 ワークショップ「障害のある人に どんな配慮が必要だと思ったか」 各地にキャラバン隊結成促進
本人部会「長崎きずな」 連絡協議会	3月1日(日)	長崎県総合福祉センター 交流室(予定)	10:00~12:00 1年間の反省・次年度に向けて
全国育成会フォーラム 会長・事務局長会議	3月中旬	全育連(東京)	会長・事務局長会議はオンライン 育成会フォーラム・行政説明は事前収録配信
長崎県育成会理事会	3月19日(木)	長崎県総合福祉センター 交流室(予定)	13:00~16:00 R7年度補正予算等 R8年度事業計画・予算等



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者(本人・家族)に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。年間3,900円 B5版48ページ

長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

お申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

知的障がい・発達障がい、ダウン症、てんかんのある方、ご家族に

病気やケガが絶えない…
成人病や生活習慣病に備えたい…
他人の物を壊してしまった…
虐待・雇用現場での差別など人に相談しにくい悩みがある…

障がいのある方とご家族へ

ぜんちの **あんしん保険**

- ・最高日額1万円
- ・個人賠償責任補償
- ・弁護士費用補償
- ・安心サポート

このようにお困り事に心当たりがある方に…

特別支援教育を必要とされている方へ

ぜんちの **こども傷害保険**

- ・入院・通院を日額保障
- ・個人賠償責任補償
- ・トラブルに巻き込まれた際、弁護士がサポート

詳しい資料のご請求・お問合せはこちら

ぜんち共済株式会社
関東財務局長(少額短期保険)第14号
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5 九段北325ビル4階

0120-322-150

平日9時~17時/土日・祝日・年末年始を除く
URL: <http://www.z-kyosai.com/>

取扱代理店(資料請求・その他お問い合わせ)

有限会社トータル・サービス

〒850-0033 長崎県長崎市万才町6-35大樹生命長崎ビル5F
TEL: 095-827-7705 FAX: 095-832-2580

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。

[2020年1月作成 19-TC06633]